

# ほくえん



おかげ様で北縁は **50号** を迎えました。



## じゅう や 十夜法要のご案内

今年は3年振りにご参列いただけます。  
十夜法要とは、浄土宗の最も大切な經典の一つ「無量寿經」の中に、  
「此に於て善を修すること十日十夜すれば、  
他方の諸仏国土にして善をなすこと千歳するに勝れたり」  
現代語訳 この世界で十日十夜の間、善行を修めることは、その功德は他の仏の世界で千年にわたって善行を励む功德よりも勝れている。  
とあることに基づく法要です。

11月3日(木) 文化の日

午後1時 法話 → 10分間の小休憩 → 午後2時 法要

(塔婆申込には同封の振替用紙をお使いください)

### 法要に参加してみよう



1 まずお寺に入ります。駐車場は手狭なため車が停められないかもしれません。その際は周りの有料駐車場をお使いください。公共交通機関では地下鉄東豊線「豊水すすきの」駅6番出口がすぐです。



2 受付をすませましょう。



3 塔婆を受け取り、水向け供養をします。お坊さんが付いていますのでご安心ください。



4 法話がはじまります。本堂に行きましょう。

5 次は、法要です。少し休憩をして始まります。



法要開始です。

お子様向けにおもちゃを用意しております。



※本堂は暖房をつけますが、寒く感じるかもしれませんので、当日は暖かい服装でお越しください。  
見どころの多い仏教に親しむことができる法要です。多くの皆様のお参りをお待ちしております。

〈法話〉

よろこ  
「会う悦び」

新善光寺所属 たちばな しゅんぶ  
立花 俊輔



法然上人のお手紙である「正如房へつか  
わす御文」を通して、私たちの一生にお  
ける出会いの大切さをみつめ、ひいて  
は、命終わった後のことをみずえます。

新善光寺の十夜法要は“ココ”に注目！！

- ・ **双盤念仏** ～長い節を付ける独特のお念仏を唱えます。
- ・ **太鼓** ～木魚ではなく太鼓でお経を読みます。本堂に太鼓の音が響き渡ります。
- ・ **回向** ～和讃（歌）を唱えてそれぞれお申し込みのお戒名を一霊位様ずつ丁寧に読み上げてご供養いたします。
- ・ **解説** ～法要ではモニターでスライドを使いお経を解説しながら進めます。



一日限りの特別展示

新善光寺所蔵宝物の特別展示ですが、十夜法  
要に合わせておこないます。

前回とはまた違う展示物になると思います。  
どうぞ、ご覧ください。

展示期間：11月3日 午前9時～午後2時



## 団体参拝旅行のお知らせ 来年4月に東京・増上寺へ

2泊3日

2023年4月5日～7日

● 旅行代金 約12万円(税込、食事代込)

前号でもお知らせしましたが、東京では桜咲く4月に増上寺への団体参拝旅行を計画しております。

まず、初日に増上寺で御忌法要という浄土宗における重要な法要にお参りし、翌日には東京で徳川家康公ゆかりの寺院をお参りします。

詳しくは下記旅行日程をご参照ください。

ゆっくりと参拝・移動し、また前回の長野旅行同様、看護師さんも1名同行していただく予定であります。

参加ご希望の方には申込書をお送りしますので、アンケートはがきにその旨をお書きいただくか、お電話でお問い合わせください。



### 日 程 表

日程	行程	宿泊	食事
4月5日 (水)	航空機 新千歳空港 →→→→ 羽田空港 === 9:00～9:30頃 10:30～11:00頃 === <b>大本山増上寺【御忌大会】</b> === 11:45 16:00 名コース料理のご夕食 === 横浜中華街 === 東京(泊) 19:30頃	品川プリンスホテル ※洋室2名様 1室利用	朝:× 昼:○ 夕:○
4月6日 (木)	ホテル === <b>九品仏・浄真寺</b> === <b>傳通院</b> 8:30 === 都内(昼食) === 日光江戸村 === 鬼怒川温泉(泊) === 17:30頃 	鬼怒川温泉 ※和室4名様 1室利用	朝:○ 昼:○ 夕:○
4月7日 (金)	ホテル === <b>日光東照宮</b> === 8:30 === 中禅寺湖  === 日本三大名瀑のひとつ === 華厳の滝 === 航空機 === 羽田空港 →→→→ 新千歳空港 === 16:00～16:30頃 17:30～18:00頃		朝:○ 昼:○ 夕:×

【ご案内】交通機関の発着時刻および交通機関等は変更になる場合があります。



## 浄土宗の総・大本山について

### 第3回目：増上寺

今回は来年に団体参拝旅行で伺う東京都港区芝にあります、増上寺を紹介したいと思います。

東京タワーと一緒に写っている写真や、節分にお相撲さんや芸人の方が節分に豆まきをする様子のニュースなど、どこかで目にしたことのある方も多いと思います。また、安倍元総理のご葬儀をされたお寺ということで覚えている方もいるかもしれません。

#### 〈歴史と由来〉

増上寺は1393年に浄土宗八祖の西譽<sup>ゆうよしょうそう</sup>聖聰上人によって開かれました。場所は武蔵国豊島郷貝塚、現在の千代田区平河町から麴町にかけての土地と伝えられています。

室町時代の開山から戦国時代にかけて、増上寺は浄土宗の東国の要として発展していきます。徳川家康公が関東の地を治めるようになってまもなく、徳川家の菩提寺として選ばれました。徳川将軍15代のうち6人が埋葬され、墓所も時期によってですが見学可能です。そのご縁で我々浄土宗は徳川家の家紋であります「三つ葉葵」の使用を許可されており、仏具やお坊さんの袈裟等で見かけた方もおられると思います。また、公開されていない秘仏ですが、本堂横の安国殿というお堂には、徳川家康公が日常的に拝んでいた「黒本尊」と呼ばれる阿弥陀仏像が本尊として奉られています。



徳川将軍の墓所



増上寺大殿への階段

#### 〈見どころ〉

まず目に入るのは三解脱門（三門）と言われる東日本最大級の門。こちらは1611年に建立されたもので、増上寺が江戸の初期に大造営された当時の面影を残す唯一の建造物で、重要文化財にも指定されています。こちらを抜けまして正面に見えます建物（大殿）に本堂がございます。また、展示室もあり、有料ではありますが時期により様々な展覧会もおこなわれております。他にも境内を歩いて散策していただくと、だいたい1時間程度で散策することができ、都会の喧騒を忘れさせてくれるような竹林に囲まれている貞恭院、千躰子育地藏尊という子どもの成長を願って沢山並んでおられるお地藏様など紹介できないほど見どころがあります。



増上寺三門

シリーズ 仏事のおはなし

仏さまのおはなし ④

今年の夏は比較的涼しく過ごすことができ、秋も穏やかな日が多かった印象があります。情勢は未だ憂慮することが多い中、少しずつではありますがコロナ前の生活に戻りつつある気がしています。お檀家の皆さんの日々の暮らしが穏やかであるように寺内一同念じているところです。

さて本テーマも4回目。仏教を開かれたお釈迦さま。そのご生涯もいよいよ終わりに近づいてきました。人間釈迦の最後、そして後世に残された教えについて今回はお話しします。

釈迦如来 ④

お釈迦さまの法（教え）は広がり、例えるなら喉が渴いたものが水を求めるがごとく、人々がお釈迦さまの下に集まりました。多くの人がお釈迦さまを仰ぎ、弟子となりました。お釈迦さまのお弟子で現代に伝わる著名な高弟に「十大弟子」と呼ばれる人たちがいます。1. 舍利弗（智慧第一）、2. 目犍連（神通第一）、3. 摩訶迦葉（頭陀第一：清貧の実践）、4. 須菩提（解空第一：空性の理解が深い）、5. 富楼那（説法第一）、6. 迦旃延（論議第一）、7. 阿那律（天眼第一：超自然的眼力）、8. 優婆離（持律第一：厳格な戒律の実践）、9. 羅睺羅（密行第一：規則を守ることなどに緻密）、10. 阿難（多聞第一：釈迦の教えをもっとも多く聞き記憶すること）。これら高弟たちは、教団の運営やお釈迦さまの教えが後世に伝えられることに貢献したと言われています。

「精舎建立」

初転法輪の地、鹿野苑を発たれたお釈迦さまは、各地で説法をつづけられました。やがて千人の弟子たちを率いて王舎城に入られました。ここで頻婆娑羅王を教化し、お釈迦さまやお弟子たちのためにお寺（精舎）「竹林精舎」を寄進されました。また、平家物語の冒頭に出てくることで有名な「祇園精舎」は、お釈迦さまの故郷に近いコーサラ国の首都舎衛城近くの森に建立されました。

これら精舎は布教活動の根拠地となり、ここより盛んに仏の教えを広めました。



## 「涅槃（入滅）」

布教の旅を続けること45年。80歳となったお釈迦さまは王舎城から舎衛城へ行く途中に病気になり、「三月の後に涅槃に入るであろう。」と言いました。さらに進む途中、供養された食物あたって病が悪化し、痛みを押してクシナガラの地に入りました。

お釈迦さまはクシナガラ城外の沙羅双樹（沙羅の大木が二本並び立っている場所）のもとに横たわり、最後の刹那まで弟子たちに教えを説き、涅槃に入りました。涅槃とは、煩惱の火が滅した状態、苦しみが消滅し、悟りの境地に至った状態のことです。人の肉体であったお釈迦さまの生涯は閉じられましたが、生老病死の苦より解脱したことを指します。

お釈迦さまは最後の教えにおいて『おのおの、自らを灯火とし、自らをよりどころとせよ、他を頼りとしてはならない。この法を灯火とし、よりどころとせよ、他の教えをよりどころとしてはならない。』とお言葉を遺されています。これは有名な「自灯明、法灯明」という教えです。自らを灯とする。自らをよりどころとする。それと同時に、仏の教え「法」をよりどころとし、灯としていかなければならないという教えです。

お釈迦様の遺された「法」は「八万四千」といわれるほど多くの言葉が現代に伝わっています。我々浄土宗の教えもその一つです。お釈迦さまはその大切な数々の教えの中に、しっかりと人生の指針を遺して下っているのです。そして、それらを受け取って実践し人生を歩むことが仏教徒として大切なことなのでしょう。

## 「お釈迦さまの悟り」

さて、お釈迦さまが至った悟りの境地とはどういったものなのでしょう。

お釈迦さまが菩提樹のもとで瞑想し得た真理は「四聖諦」と呼ばれるものです。これは「苦諦（人生は苦の連続）」「集諦（苦しみには原因があり、その原因をはっきりさせる）」「滅諦（心の持ち方によって苦は消える）」「道諦（苦を滅するための方法）」と呼ばれる四つの真理であるという仏教の根幹思想のことです。人生は思い通りにならないことの連続です。それはありとあらゆる事象にとらわれていることに他ならない。それらから解脱し、あらゆること明らかに見通す智慧を身につけることを体系づけしたのがお釈迦様のお悟りといえるでしょう。

ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話③①



## 〈私の八月、さまさまの八月〉

こまき ね きんしょう  
駒木根 琴生

先日、北海道立文学館で10月23日まで開催の「金子みすゞの世界」展を観た。40数年前、作品に出会ってファンになった。生誕地の山口県仙崎の記念館には3度訪れている。長男との突然の別れの際、母の悲しみを吸い取ってくれた「明るい方へ」の歌に再会できた。いずれの作品にも改めてみすゞさんの優しさを感じた。

「蚕は繭にはいります、きうくつそうなあの繭に。けれど蚕はうれしかろ、蝶々になって飛べるのよ。人はお墓へ入ります、暗いさみしいあの墓へ。そしていい子は翅が生え、天使になつて飛べるのよ。」に亡き息子を重ねて泣いた「繭と墓」。

彼女の五百余りの作品には、世の中の全てのものには精霊が宿っていて、人間と同じような存在である世界観・宗教観が流れているように私は思う。それが彼女の全ての作品の優しさに通じているのだろう。その典型作の一つに「鈴と小鳥とそれから私、みんなちがってみんないい」の「私と小鳥と鈴と」がある。戸惑いを越えてより深く理解したい。老後の課題を抱きつつ会場を後にした。

8月中旬、五山の送り火を見に京都へ出かけた。お誘い下さったのは佛教大学通信教育（平成9年）同級生の竹内さん。卒業後のインド旅行では奥様もご一緒した。その後もすっかりお世話になっている。駅よりそれ程遠くないマンションの9階のお部屋より送り火が見えるという案内に心舞わせて主人と伺った。五山送り火とはお盆で帰って来た精霊を送る8月16日の伝統行事である。京都を囲む五つの山々に大文字・左大文字・舟形・鳥居形・妙法の形に灯すかがり火を五山送り火という。午後7時頃、全てが交差する金尾にある大師堂内で法要が始まる。午後8時、大師堂内で灯した火を保存会長が高く掲げながら五山順々に「用意はええか」と確認し、一斉に点火。

五山点火が始まる迄、私たちは竹内家でおもてなしを受けた。初めての主人は窓の大きさに驚き9階からの山々を眺めた。まず、再会を祝して乾杯！竹内さん手作りコンニャクの珍味はビールにピッタリだ。3段の折詰は京都独特の鱧・鮎を中心に彩り美しく豪華だ。お喋り弾んだ頃、8時3分最初の左大文字の点火を見つけた。次々に点火。やはり一番大きな右側の大文字は流石だ。お浄土へ戻る精霊を思いお念仏唱えた。長い間の夢の実現に竹内さんご夫妻に深謝した夜だった。

8月末、残暑の中にも初秋の風が紅葉を運んで来た。



京都市街地より五山送り火を望む

阿弥陀仏に染むる心の色に出でば 秋の梢のたぐいならまし  
(法然上人御道詠)



## 讃州の旅で出会った“木守”<sup>きまもり</sup>という言葉

法然上人の足跡と崇徳院の御陵を訪れたくて、讃岐路を旅したことがあります。その際、なにかおみやげをと思ひ物色していると、柿を使ったお菓子「木守」<sup>きまもり</sup>に巡り会いました。“木守”という言葉が知らなかったのですが、由緒書きをよくよく読んでみると、すてきな言葉であると感銘しました。

木守とは、収穫期に柿の木になった果実をすべてとらず、あえてひとつふたつ木に残した柿をさすそうです。その謂れは、来年の秋も再び実を結ぶようにと豊作を祈って、わざと木に数個残すのだと伝えられています。その姿は、冬枯れし丸裸になった木を守っているように見えることでしょうか。そして、えさの少ない季節に鳥たちがその木守をついばむ様子は、なんとも情趣があります。また、お茶の世界では、「木守」というお茶碗があるそうです。利休居士が、あるとき門弟たちにここにある茶碗で好きなものを持っていくがよいと言い、最後にひとつ残ったのが赤楽茶碗だったので、まさに木守柿のようだと銘打ったのです。

こう聞くと、柿をひとつふたつ木に残すなんて、なんと無駄なことをするのだ、すべて収穫したほうが利益になるではないか、というような意見もあるかもしれません。しかしながら、木守という慣習には、我が国独特の文化や心性が反映された魅力的な行動様式だと感じます。我が国は、自然とともに歩んできた歴史があります。ときに自然は、我々に豊かな恵みを与えてくれます。はたまた、台風や地震・津波・干ばつなど、牙をむくこともあります。しかし、我が国の祖先は、決して自然を征服することやコントロールするようなことなく、人も自然の一部だとわきまえて暮らしてきました。それは、思想としての“無常”ではなく、骨身にしみた“無常”なのです。

無意味という意味を重んじ、無価値という価値を尊んできた我が国の祖先が培ってきた精神をこれからも大切にしたいものです。近頃は、そんな寛容で曖昧な我が国独特の精神が、薄れてきたように感じます。讃州の旅は、我が国の文化のかぐわしい香りを思い出させてくれました。  
〈文：立花 俊輔〉



善通寺境内にある法然上人の御遺跡



四国八十八箇所  
第七十五番善通寺五重塔



銘菓 木守の掛け紙

—お檀家タウンページ～ともいき訪問②④—

## 横山家（札幌市東区丘珠町）

丘珠の広大な地で、玉ねぎを家族3世代みんなで育てる

今回は札幌市東区丘珠町で玉ねぎを作られている横山家さんのところへ行ってきました。

8月のお盆参りに伺ったときは仏間から緑色の畑を見ることができ、実際に畑に立っての眺めも壮観でした。収穫時期の連絡を受けて、9月初旬に改めて取材させていただいた時は、ご家族総出で収穫作業中でした。

写真をご覧くださいてもわかるように畑は広くて2.8ヘクタールでおよそ8480坪、横山さんの畑で玉ねぎは一反（300坪）で7トン収穫できるそうなので、ざっと計算して198トン。それをおよそ3日間かけて収穫されるとのことでした。

お母様の静江様にお話をお聞きしました。「ご先祖様は明治24年に雁来に入ってきました。早いほうだと思います。この丘珠に家を建てたのは12年前で、畑はそれ以前からこちらでおこなっていました。」

今年の玉ねぎの出来について尋ねると「うーん、豊作でも不作でもなく平年作といったところでしょうか。今年は肥料代も高騰していてなかなか大変です。戦争の影響ですから、早く何とか収まってくれるといいのですが。」とのこと。

玉ねぎの種類は主にF1種の“北もみじ2000”、そして少量ですが“さつおう”と“札幌黄”を栽培されています。“さつおう”は札幌黄の品種改良された玉ねぎで格別に美味しいということで、学校給食で使われているようです。



8月の畑は一面、緑でした



取材した日は快晴で、見渡す限りの青空



後方座席には妹さんとお嫁さんが座られて作業



スイスイと運転されていたお孫さん

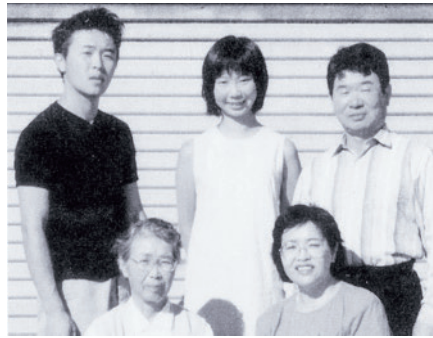


玉ねぎの保存方法について「もったいなからと家の中にいれとかないで、外に置いてください。雨当たっていいからと。そのために玉ねぎはネットの中に入れているのです。」と教えていただきました。

息子さんの嗣元さんと妹さんお嫁さん、そしてお孫さんと3世代にわたって皆さんで協力して収穫作業しております。お孫さんは機



コンテナにびっしりと入った玉ねぎ



平成10年発行の北札幌農業協同組合史の組合員紹介ページより

械を運転して、ある時また

ま新聞記者が通りかかり、その光景に驚いてすぐ取材されたということもあったようです。

残念ながら現在、直売所はされていないのですが、他の方の畑では直売所をされているところもあるようです。

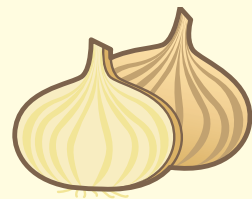
最後は仲良く家族写真も撮らせていただき、ご家族のあたたかさを実感いたしました。



皆さん笑顔で仲の良さが伝わります

### 「玉ねぎができるまで」

- ・11月 苗を育てるためのビニールハウス準備  
冬の間、ハウスがつぶれないように除雪
- ・2月下旬～3月上旬 ハウスで種まき、苗を育てる
- ・4月下旬～5月上旬 畑へ植える
- ・～収穫 虫や病気から守る
- ・8月中～9月 根切り、収穫、出荷
- ・10月 来年へ、畑の準備



しろいし幼稚園から

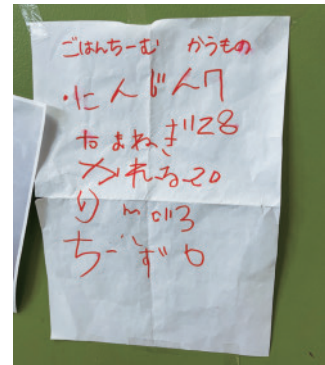
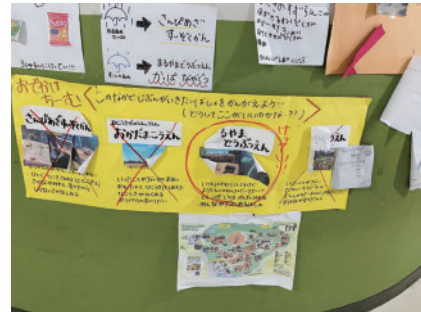
## 子ども達の成長

春に子ども達が植えたコスモスが大きく育ち、きれいな花を咲かせています。秋らしい気候になり、子ども達はななかまどの実を拾ったり、色づいた落ち葉を見つけたり、遊びの中でも秋を感じています。

幼稚園では、年長組の子ども達がおたのしみ会の準備で大忙し。この日は、夜まで幼稚園に滞在しますが、幼稚園で過ごす一日を子ども達自身でどのように過ごすか計画し、準備を進めていくのです。「お出かけチーム」「夜ごはんチーム」「夜のおたのしみチーム」「司会チーム」の4つの係に分かれて企画していきます。チームごとに話し合いを進め、カレー作りをした後、動物園に行き、夜は花火をするという1日のスケジュールが決まりました。司会チームはそれぞれのチームから情報をもらいながら、当日の進行の台本作りです。

そして、そのような年長児の活動の様子を年中児や年少児も興味深く観察しています。「おおきくなったら、自分たちもやってみたい!」と憧れの気持ちを持つことで、自分たちの番になった時に活動に意欲的に取り組む事ができるのです。

白石幼稚園では、このように子ども達自身が日々の生活や遊びを主体的に作っていく保育を行っています。令和5年度の園児募集については、11月1日が願書受付となっておりますので、お近くに入園希望の方がいらっしゃいましたらぜひ幼稚園までご連絡ください。



## 令和5年度 新入園児募集

**2歳児** (令和2年4月2日～令和3年4月1日生まれ) **12名**

**年少児** (平成31年4月2日～令和2年4月1日生まれ) **56名**

願書配布 **10月17日(月)** 願書受付 **11月1日(火)**

※入園希望される方には、事前の幼稚園見学をお願いしております。お電話でのご予約をお願いします。

学校法人新善光寺学園 **しろいし幼稚園**

〒003-0028 札幌市白石区平和通1丁目南6番16号 URL [siroisi-pippara.ed.jp](http://siroisi-pippara.ed.jp)  
TEL 011-861-4426 FAX 011-866-0707 E-mail [siroisi-pippara@cyber.ocn.ne.jp](mailto:siroisi-pippara@cyber.ocn.ne.jp)



清璋寺から

## 秋彼岸・慈悲つむぎ法要を行ないました

9月25日、清璋寺にて「秋彼岸・慈悲つむぎ法要」を厳修いたしました。

慈悲つむぎ法要とは、「阿弥陀様からの慈悲の心を紡いでいただく」をコンセプトに法話による知的理解と法要による体験的理解をあわせて「心での理解」へとつながる法要です。

普段の法要にはない阿弥陀様のおそばまで行き阿弥陀様から結ばれた五色の糸に触れて頂く作法を檀信徒の皆様で体験いたしました。

阿弥陀様の存在を触れながらご先祖様のおられる彼岸（極楽浄土）に思いを馳せるとても貴重な時間を過ごすことができました。



清璋寺 札幌市手稲区西宮の沢5条1丁目19-35 TEL 011-668-5110

慈啓会から

## 札幌慈啓会総合相談室のご案内

専門スタッフが保健・医療・福祉などのご相談に応じます。

病気や加齢は様々な生活上の障害を生み、時には介護や看護を必要とする場合があります。ご心配やお困りのときはお気軽にご相談ください。ご相談の内容は秘密厳守いたします。



☎️ 0120-83-8291

お電話受付時間／8:45～17:00(土日・祝は除く)  
E-mail／info-jk@sapporojikeikai.or.jp

相談  
無料

当山のお仏像を紹介します⑦

た もんてん  
多聞天

本堂須弥壇のむかって  
右手前の角におまつりし  
ているのが、今回紹介す  
る多聞天です。多聞天  
は、四天王のうちの一尊  
で、北の方角を守護する  
とされています。別名を  
毘沙門天といい、単独で  
信仰されることもあります。  
また、七福神の一つにも数えられておりま  
す。お念仏者の私たちに、苦しみや悲しみを通し  
てのみ見えてくる本当の福德を授けてくださるの  
だと拝します。



## お寺で怪談を……

久々に地域イベントの鴨々川ノスタルジアが  
帰ってきました。

暗いお寺の中で朗読の声と映像も使い恐怖を  
表現するようですので、もしよろしければ是非  
ともご覧ください。

### 口伝すすきの怪談 2022 ～白首たちの挽歌～

10月29日(土) 17時開演 (16時30分開場)  
入場料：2,500円 (鴨どら・富くじ付き)



お問い合わせは、新善光寺 (011-511-0262 担当：副住職) まで。



## 北縁 なんでも Q & A

いつもご質問、感想等、ご投稿いただきありがとうございます。

日々新しいシステムが席卷する今日、儀式の形や価値観も多様化しています。お寺を取り巻く情勢も色々な変化があり、お檀家の皆様との会話の中身も徐々に変化している印象があります。きっと色々な疑問点があると思いますので、そんな時は是非このコーナーを利用してみてください。出来得るかぎり、新しい形に則してお答えしていきたいと思います。

また、引き続き皆様のご質問を募集しています。本報への感想やご投稿なども引き続きお願いします。

**Q** 札幌市外へ引っ越した者です。  
今後の供養はどのように行っていけばよいでしょうか。

**A** お仕事の関係で引っ越しされる方。または、お子さんと同居するため札幌を離れる方。理由は様々ですが、そういったご相談はよくあります。遠方在住でも可能な限りはお参りに伺っていますが、難しい場合は近くの寺院を紹介するなどの対応をしています。

浄土宗において札幌は、「北海道第二教区南組」という管轄区になっています。浄土宗寺院は全国に約7,000ヶ寺ありますので、全国どの管轄区においてもお近くのご寺院をご紹介しますことができます。

「今までずっと命日にはお寺さんに来てもらっていたので、引っ越し先でもお願いしたい」などのご希望があるお檀家さんは直接ご相談ください（電話・FAX・メールなど）。ただし、地域によってはご自宅へのお参りに伺わない慣習のところもありますので、その場合はお寺に伺って供養してもらうなどの手段をとられるとよろしいでしょう。

**Q** 先日の法要でお戒名のお話を興味深く聞きました。  
もう少し知りたいです。

**A** 6月に行った「御忌・永代祠堂法要」では、大阪 大通寺の太田寛隆上人より戒名についてのお話をさせていただきました。興味深くお聞きいただいた方が多かったようで、同じような感想をいくつか頂戴しています。このコーナーでは紙面が限られていますので、少しだけお戒名の意義について回答いたします。今後この寺報で詳しく取り上げてみたいと思います。

お戒名は一般的には「戒名」と呼称していますが、これは「仏弟子になるため、授戒した。戒を頂いたことで頂戴する名前」ということになります。ですから、「授戒」された証が「戒名」で、戒名がないという事は「仏弟子」になっていないという事になります。「授戒」とは信者が仏門に入るときに、その修行のための規範・規律（戒）の教えを授けられることです。ですから本来は儀式の中において、それら「戒」の事を学び、今後「戒」を保つ誓いをたてなければなりません。しかし、亡き人に対してはそういった行為ができませんので、葬儀式の中において戒を授ける「授戒作法」を行って仏弟子になっていただき、極楽浄土へ往生していただくということになります。

浄土宗の戒名のつくりは本来の「戒名」の部分のほか、「警号」という「お念仏の極意を授けられた証」の部分が漢字二文字で表されます。また「院号（院殿号）」など、より功德を積むため戒名へ付与することもあります。

### 今後の予定

どなたでもご参加・お参り可能です。

10月22日(土) 14時	仏教講座「写経」
11月 3日(木)	十夜法要 (2、3 ページ参照)
11月26日(土) 14時	仏教講座「写経」
12月 9日(金) 14時	仏名会
12月24日(土) 14時	仏教講座「未定」
12月31日(土) 23時45分	除夜の鐘



### 東京別院 霊源寺から

東京別院霊源寺では9月23日に秋彼岸法要をおこないました。

今年もコロナ禍の為、残念ながら参列の方は無しのおつとめでした。来年の春彼岸法要は是非とも皆さんとお参りしたいものです。

霊源寺では東京近郊にお住まいの新善光寺檀信徒の方の法事・葬儀などのご供養をおこなっております。どうぞ、お気軽にお問い合わせください。



**大光山 霊源寺**

受付時間 9:00~19:00  
毎日見学受付中

東急目黒線・不動前駅 徒歩7分(桐ヶ谷斎場真向かい)  
〒142-0063 東京都品川区荏原 1-1-2 FAX:03-3494-6319  
TEL:03-3494-1083

大光山霊源寺 検索

### 編集後記

今回は50号という区切りの発行となりました。せっかくだから何か特別に・・・と思いましたが、今後も続きますので、表紙だけは特別にして他はいつも通りの紙面にしました。

少しずつ寺の行事も集まりも元通りとはいきませんが、戻していきたいと思っております。どうぞ引き続きよろしく願いいたします。ご感想・ご意見お待ちしております。(真海)

※新善光寺の日々の情報は各種 SNS にて公開しております。  
どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。

新善光寺 検索



ホームページ YouTube

新善光寺寺報  
*Hokuen* 50  
北 縁

発行 / 2022年10月発行  
発行責任者 / 新善光寺住職 太田真琴

〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目 [TEL] 011-511-0262 [FAX] 011-511-4706  
[ホームページ] <http://s-zenkoj.com> [Eメール] [s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp](mailto:s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp)